

主題名：感謝の気持ちを持って B感謝

資料名：大通りのサクラなみ木(東京書籍)

男子17名 女子16名 計33名

主題について

指導者 T1 中坪 清美

T2 宇多 弘典

ねらいとする価値

よい人間関係を築くためには、根底に相手に対する尊敬と感謝の念が必要であるが、こうした気持ちは、人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つときに育まれる。ここでは、感謝する対象を家族など日頃世話になっている身近な人々に加え、見えないところで自分たちの安心で安全な生活の実現のために働く人などの存在に気付き、その人々によって生活が支えられていることについて考えを深めさせ、尊敬と感謝の念を育むことをねらいとする。

児童の実態

- ① 児童は5月に「親切・思いやり」の内容項目で、人の気持ちを考え、思いやりの心で接することについて学習した。この際適切な行為に対し感謝し人のために行動を起こすことの大切さについて考える経験をしている。
- ② 自分のために、直接的に助けてもらった人に対しては、素直に感謝の気持ちを抱き表出することができる児童が多いが、地域の方や先輩の存在に十分に気付き感謝の気持ちを抱いている児童は多くない。
- ③ 道徳の時間では、恥ずかしさのため発言する児童が限られている。友達の見聞に耳を傾け、自分の考えと比較しながら考えることの楽しさや大切さについて少しずつ気付きは始めている。

考え、議論する道徳の時間を充実させるために

○ 児童が実感を伴う納得を得、実生活に生かすことができる道徳学習プログラムの作成

感謝の気持ちは他人に押しつけられて生まれてくるものではない。自分を支えてくれている人々の存在に気付き、支えてくれる人々の思いに気付いたとき、自然と感謝の気持ちが湧いてくる。そこで、児童自らの気付きを引き出すために、道徳学習プログラムを作成し、次のような工夫をする。

事前に総合的な学習において、「地域のすてきを見つけ隊」という活動を行い、地域のために活動している方をゲストティーチャーとして招き、活動内容やそこに込められた思いについて話を聞く場を設定する。児童がそれまでに作成した「地域のお宝マップ」に「地域のすてきな人」を加えるという共通の体験をすることで、自分を支えてくれている人々の存在とその思いを実感を伴って気付かせるようにしたい。

本授業の主題は「感謝」であるが、導入部分において、「感謝」という言葉を用いたテーマを設定することは適切ではないと考える。このようなテーマ設定は教師誘導型の授業を招き、テーマの枠内での問題探しとなると考える。そこで、桜並木の雰囲気写真を示し味わわせながら、「この話で考えてみたいこと」を児童に問い、登場人物の思いや行為の意味について考えるテーマを引き出すようにする。

展開前段においては、大西さんの行為に込められた思いや、大西さんを尊敬する主人公の気持ちに十分に共感させたい。その際、児童の中に内在するであろう感謝の気持ちに気付かせるために、T2が「大西さん」役になり、役演技を行う。次に、「どんなとき、だれに『ありがとう』と思いますか」という事前アンケートの結果を提示する。ここには「ごはんを作ってくれる家族」「水筒を持ってきてくれた友達」など、自分に対して直接的に何かを「してくれる」ことに対する感謝が主に示されている。そこで、「大西さんはサクラに対しては世話をしているけれど、『ぼく』に対して何かをしてくれたわけではないのに、どうして『ありがとう』と思うのですか。」と発問し、大西さんが、見えないところで「ぼく」を支えている存在であることへの気付きを深めたい。

展開後段においては、「あなたにも、大西さんのように自分を支えてくれている人がいますか。」と問いかける。ここでは児童自身の気付きを大切にしたい。児童は、総合的な学習の時間の経験を思い出し、地域の方などの名前を挙げていこう。「どうして大西さんに似ていると思ったの?」「〇〇さんのどこが素敵なの?」「〇〇さんのことをあなたはどう思うの?」などと発問することで、児童の中から「感謝」の気持ちが自然と湧き出てくると考える。

○ 発問の工夫

本授業は【A 共感的な発問】【B 分析的な発問】【C 投影的な発問】【D 批判的な発問】の順で5つの発問を計画している。心情について扱う資料のため、【A】の発問は欠かせない。工夫点としては、【C】に係る発問を取り入れ、役演技で主題に係る心情を引き出すことである。中心発問は【D】に分類されるもので、教材からやや離れて児童の「感謝」に関する考え方を問うものになっている。各発問の意図については、本時の学習展開に述べている。

2 本時のねらいと授業の展開

本時の学習

(1) 本時のねらい

自分の生活が、間接的にも様々に、多くの人々によって支えられていることに気付き、そうした人々を尊敬し、感謝する心情を育てる。

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動 ○主な発問 ●中心発問 ・予想される児童の心の動き	◇指導上の留意事項 □道徳学習プログラムとの関連 □発問の意図 ＊評価
気 付 く	1 桜並木や「はなみずき通り」の写真を見て、教材を読み感想を交流し、これから考えたいことをはっきりさせる。 ・きれいな花だな。誰が手入れをしているのだろう。 ・「大西さん」は偉いなあ。どうしてそこまでして頑張るのだろう。 ・「ぼく」が「今年のサクラは違って見えた。」のは、どうしてだろう。「ぼく」の気持ちを考えたい。	◇ 読むことに抵抗を感じている児童もいるので、話の内容を捉えやすくするために、T1が読み語りをし、TSが挿絵や文カードを掲示する。
と ら え る	2 「大西さん」のサクラの世話に込めた思いや「ぼく」の気持ちを考える。 ○ 「大西さん」は、どうしてそんな大変な世話をするのだろう。 【A共感的な発問】 ・みんながきれいだなあと思ってくれるのが嬉しいから。 ・町が明るくなる。町が大好きだから。 ・町の人が笑顔になるから。 ・声を掛けてくれるのが嬉しいから。 ○ 「とてもやりがいがあるんだよ。」と話す「大西さん」に、「ぼく」は、どんな思いをもったでしょう。 【A共感的な発問】	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>□発問の意図</p> <p>ここでは教材の話の中に十分に浸らせ、主人公と「大西さん」の思いに共感させたい。「大西さん」は、町の人々が喜ぶことを嬉しく思い、大変な作業でさえ「とてもやりがいがある。」と感じている。そうした姿は、児童にとっても「偉いな。」「素敵だな。」と素直に感じることができ、尊敬の気持ちが湧いてくるであろう。【A共感的な発問】を重ねることで、このような気持ちに気付かせたい。</p> </div>

考えたいこと ・どうして、「大西さん」はサクラのお世話をするのか。
 (例) ・「大西さん」のことを知った「ぼく」の気持ちを考えたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「大西さん」はサクラのことも町のことも考えていて偉い人だ。 ・町のことが大好きだなんて素敵だ。 ・ありがとうございます。 ○ 「今年のサクラは今まで見てきたサクラとはだいぶ違って見えた。」のは、どうしてだろう。【B分析的な発問】 ・「大西さん」が頑張っていることを知ったから、きれいに見えた。 ・サクラを大切にしたいと思ったから。 ○ もし、このときバツタリ大西さんにサクラの前で会ったとしたら、自分だったら大西さんに何か言いますか？ 【C投影的な発問】 ・大西さんたちのおかげで、きれいなサクラを見ることができます。ありがとうございます。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>□発問の意図</p> <p>「ぼく」が「今年のサクラは今まで見てきたサクラとはだいぶ違って見えた。」のは、大西さんの努力を知り、見方を広げ感謝の念を抱いたからに他ならない。そのことを言語化し認識することが、児童自身の「自分を支えてくれている人々」の広がり意識させることにつながると考えた。そこで、【B分析的な発問】により、「サクラが違って見えた理由」について問う。児童はそれまでの丁寧な状況把握と、多面的な見方により、「自分だったら大西さんに何か言いますか？」という【C投影的な発問】に対し、自然と感謝の気持ちを抱くことができるであろうと考える。</p> </div> <p>◇ 児童の中に内在するであろう感謝の気持ちに気付かせるために、T2が「大西さん」役になり、役割演技を行う。</p>
<p>深 め る</p>	<p>3 アンケート結果について知り、直接的に関わりがなくても支えてもらっている人がいることに気付く。</p> <p>○ 直接何かをしてくれたわけではない相手に、「ありがとう」と思うだろうか。 【D批判的な発問】</p> <p>補助発問「大西さん」は、サクラのために世話をしているが、「ぼく」の世話をしているわけではない。アンケート結果から、「自分のために～してくれる」ことに対して、みなさんは「ありがとう」と思っている。どうして「ぼく」は「ぼく」に対し、直接何かをしてくれるわけでない「大西さん」に「ありがとう」と思うのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接ではなくても、「大西さん」は「ぼく」を支えている。 ・「大西さん」のお世話が、サクラを満開にして、満開になったサクラが町の人を元気にしているから、つながっている。 ・見えないところで、仕事をしてくれていることも自分を支えていることになる <p>と、「ぼく」は気付いた。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>アンケート結果</p> <p>どんなとき、だれに「ありがとう」と思っていますか。それに対して、どのように「ありがとう」を伝えていきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごはんを作ってくれる家族 ・毎日洗濯をしてくれる家族 ・遊んでくれる友達 ・水筒を持ってきてくれる友達 など ・言葉で伝えている。 ・お手伝いをしている。 ・笑顔でこたえている。 ・帰りの会で紹介している。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>□発問の意図</p> <p>「直接何かをしてくれたわけではない相手に、『ありがとう』と思うだろうか。」【D批判的な発問】という発問は、児童のアンケート結果と、先に生じた「感謝の気持ち」のズレを認識させるものである。このことにより、直接的に何かをしてくれた相手だけでなく、さらに広い相手、例えば地域のボランティアの方などにも、自分が支えられていることを自覚することができるのではないかと意図している。</p> </div>

見 つ め る	<p>4 自分の周りにも、自分を支えてくれる人がいるかをワークシートに書いて考え、多くの人に支えられていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あなたにも「大西さん」のように、自分を支えてくれている人がいますか。 ・交通ボランティアの皆さんが毎日、立ってくださるので、挨拶を自分からしたい。 ・自治会長の〇〇さんに、「いつもありがとうございます。」とお礼を言いたい。 ・災害ボランティアの方に手紙を書いて感謝の気持ちを伝えたい。 	<p>□家庭・地域と一体となった体験活動を含む「道徳学習プログラム」との関連</p> <p>総合的な学習の時間で作成した「地域のお宝マップ」を掲示しておき、児童が地域の方の支えを想起しやすいようにしておく。さらに、ゲストティーチャーとしてお話をさせていただいた時の映像を流し、町の人のことを思っの行為であることに気付かせたい。</p> <p>◇ 教師は、「どうして大西さんに似ていると思ったの?」「〇〇さんのどこが素敵なの?」「〇〇さんのことをあなたは思うの?」などと発問することで、教師が押しつけることなく、児童の中から感謝の気持ちが湧き出てくるようにする。</p>
あ た た め る	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ あったかタイムです。「心の貯金箱」に入りたいことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、家族や友達には感謝していたけれど、地域の人にもたくさんお世話になっていることが分かったので、ありがとうございました。 ・私は、たくさんの人に支えられていることをこれまであまり考えてこなかったけれど、今日は考えられて、嬉しかったです。 ・私は、恥ずかしくてなかなか話せないけれど、交通ボランティアの方にありがとうと言えたらいいなと思いました。 	<p>◇ あったかタイムとは、自分を見つめる時間のことで、毎時間設定している。以下のような視点で、じっくり自分を見つめさせる。今回は、児童に振り返りの視点を選択させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のいいところが、見つかりましたか。 ・自分が大切にしていることが分かりましたか。 ・自分があこがれていることが分かりましたか。 ・自分の考え方のよさが分かりましたか。 ・自分がこのようにしたいということがはっきりしましたか。 ・どんなところが、むずかしいなあと感じましたか。 ・新しい発見がありましたか。 ・今まであまり考えたことがなかったことを考えましたか。 </div> <p>◇ 自分が多くの人に支えられていることの有り難さや、感謝の対象についての自己の変容に気付いている児童の言葉を取り上げ、全体に紹介する。</p> <p>* 自分の生活が、間接的にも様々に、多くの人々によって支えられていることに気がつき、そうした人々を尊敬し、感謝する心情を高めているか。(ワークシート、発言)</p>

